

■中山三屋 歌人。父の関係で朝廷側の隠密となり、尼姿で各地情報収集、父没後も謀議活動、維新実現後まもなく没。

なかやまみや

勲進帳初演・1840＝

父戸倉泰輔(岱介)は周防国都濃郡加見村(山口県徳山市)の農家出身だが、京都に寓居したとき、明治天皇の外祖父中山忠能のお手付女中室屋民子を母として、三屋が生まれる。父は忠能から名をもらい、中山忠道と名のつたという。

阿部正弘首座1845＝ 5歳：歌会に出て以来、

香川景恒門下の歌人として活躍、

北斎没・・・1849＝ 9歳：

万次郎帰国・1852＝12歳：百首詠もした。

ペリー来航・1853＝13歳：*尼姿となり、「人名覚」によれば、近畿・山陽道の多くの文人や豪商・勤王の志士たちと交際する一方、変名で、各地の政治的な動きや人の噂など情報を集めて忠能に送る役割を務め、

五ヶ国条約・1858＝18歳：

安政の大獄・1859＝19歳：*播磨国明石で、ともに諜報活動をしている時、父が死去、

桜田門外変・1860＝20歳：

遣欧使節・・・1861＝21歳：*父を偲んで、播磨国明石に滞在、西光寺の糸桜を見に行き「春の山ふみの記」を書く。

大政奉還・・・1867＝27歳：*伊勢国津藩で催された「歌相撲」に参加、判者となって藤堂家や津藩の歌人たちと親しんだが、これも諜報が目的だったといわれる。

明治維新・・・1868＝28歳：山陽道西下の旅に出て、萩・宮市・西市に滞在、

廃藩置県・・・1871＝31歳：長崎に着くが、腸の病気にかかり、父の郷里周防の富田に向う途中、宮市の末松軍平方で、没した。作品集に「浮木廻亀」「旅日記」「一夜百首詠草」。